



厚別南

札幌市立厚別南中学校
学校だより 卒業式号
令和8年3月24日(火)

第38回卒業証書授与式 学校長 式辞

例年がない、札幌の厳しい冬も終わりを迎え、ようやく春の訪れが感じられるようになった今日この頃、北野真也PTA会長様、本校のパートナー校である大谷地東小学校・井田敦校長先生、共栄小学校・中道寿美恵校長先生、ひばりが丘小学校・小松直毅校長先生をはじめとする来賓の方々にも御臨席を賜り、令和七年度、第三十八回卒業証書授与式が、このように厳粛に挙げていただけますことは、本校にとりまして、この上ない喜びであります。心より厚くお礼を申し上げます。

さて、この三年間の懐かしい思い出と、大きな夢や希望を胸にして、本校を巣立っていく、一八五名の皆さん、卒業おめでとうございます。

中学校の卒業は、義務教育九年間の卒業でもあるという、大変重みのあるものです。

皆さんが今、手にしている卒業証書は、中学校の全課程を修了した、その証です。

皆さんに、心から「おめでとう」の気持ちを込めて、卒業証書を手渡しました。卒業証書を手渡した時の一人一人の表情には、晴れやかさとともに、新たな道へ向かう、出発への決意が感じられ、とても頼もしく見えました。

思い返すと、新たな期待と不安を胸に、本校の門をくぐった三年前の入学式。その約一か月後、新型コロナウイルス感染症が五類感染症に移行した頃、コロナ前の活気を取り戻すべく、皆さんの中学校生活が本格的にスタートしました。

それからの三年間で、卒業生の皆さんは、学校づくりの主人公として、多くのことを学び、さまざまな経験を積み重ねてきました。嬉しかったこと、思うようにいかなかったこと、仲間と笑い合った時間、努力を続けた日々。その一つひとつが、今日の皆さんを形づくっているのです。

これから皆さんは、それぞれの新たな道へと進んでいきます。新しい環境には期待もあれば、不安もあることでしょう。そんな皆さんに、ひとつの言葉を紹介したいと思います。

アメリカの実業家でアップルの創業者である、Steve Jobs は、若い人たちに向けて次のような言葉を残しています。「未来をあらかじめ点と点でつなぐことはできない。あとから振り返ったときに初めてつながるのだ。」

これまで、皆さんが経験してきた出来事、そして今後、経験する出来事の中には、すぐには意味が分からない、理解できないものがあるかもしれません。失敗や遠回りのように感じることもあるでしょう。しかし、その経験は決して無駄ではない、ということなのです。

いつの日か、これまでの自分を振り返ったとき、様々な経験が、きっと自分の人生における大切な「点」だったと気付く瞬間が訪れるはずです。決して無駄な点などはなく、その点があるからこそ次の点があり、そして、今の自分があるのだ、ということに気付くことでしょう。

これからの社会は、予測が難しい、変化の速い時代だと言われています。だからこそ大切なのは、結果だけにとらわれず、学び続け、挑戦する姿勢と、自分らしく歩み続け、前に進むことだと思うのです。

皆さんがこれから出会う人、経験する出来事、そのすべてが、皆さんの未来を形づくる大切な「点」になります。どうか自分の可能性を信じ、前へ進んでいってください。

更には、皆さんの人生は、皆さん自身のものです。もしこの三年間でやり残したことや後悔したこと、挑戦したいことや叶えたい夢や希望などがあれば、この先いくらでもチャンスはあります。まずはやってみることが大切です。是非、人生の主人公として、夢や希望の実現に向けて、力強く一歩を踏み出してください。

保護者の皆様、本日の卒業式でのお子様の晴れの姿は、いかがだったでしょうか。

中学生という多感な時期ゆえ、決してこれまで平穏な日々ばかりではなかったものと思います。それだけに、ご家庭で見せる顔とは少し違う、凜とした姿に、改めてお子様の成長を感じ、感慨深いものがあったことと思います。これからも、新たな道へ向かうお子様のよき理解者として、引き続き温かく見守り、支えていただきますよう、心よりお願い申し上げます。

結びになりますが、卒業生の皆さんのこれからの人生が、実り多く、輝かしいものとなることを祈念し、式辞といたします。

令和八年三月十三日

札幌市立厚別南中学校長 児玉 大

PTA 会長 祝辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、今日まで卒業生の皆さんを支えてくださった教職員の皆様、いつも温かいご指導と励ましを、本当にありがとうございます。また、地域の皆様、いつも愛情を持って見守ってくださり、誠にありがとうございます。PTA を代表して、お祝いのメッセージを述べさせていただきます。

卒業生の皆さん、今日まで3年間本当によく頑張ってきましたね。勉強や部活動、友達との関わり、時にはうまくいかないこともあったはずですが、ここまで歩いてこられたのは、皆さん自身の努力と、周りの支えがあったからです。どうか今この瞬間、自分を誇りに思ってください。

ただ、皆さんご自身は、自分の中学校生活をどのように感じていますか？

「素敵な3年間だった」と答えられる人、「いや、もっと頑張ることができたよな」と思う人、それぞれだと思います。

ここで、あるアメリカ人の話をしたいと思います。彼は16歳で仕事に就きましたが、職を転々とし、実に40以上の仕事を経験したそうです。40歳で開業したレストランは順調に売り上げを伸ばしましたが、65歳で敢えなく閉店を余儀なくされます。しかしながら、65歳を越えてからフライドチキンのレシピをアメリカ中に広めることを決意し、挑戦し始めました。その結果、その味覚は世界中に広がり、今私たちもその味を楽しんでいるのです。そうです、彼こそ白いスーツにヒゲでおなじみの、ケンタッキー・フライドチキンの創業者カーネル・サンダースです。皆さん、彼が諦めてしまっていたら、あの笑顔も、あの味も、私たちは知らなかったでしょう。

皆さんは、まだ15歳。65歳でフライドチキンを世界中に広めようとしたカーネル・サンダースよりも50歳も若いのです。若さは皆さんにとっての最大の強みです。この厚別南中学校で過ごした3年間は、皆さんにとっての人生のダイヤモンドの原石です。この3年間の経験・体験を、正解にするかどうかは、これからの皆さんの過ごし方にかかっています。大切なのは、カーネル・サンダースのように希望を胸に、歩み続けること。自分を信じて前に進んでください。

他人と過去は変えられない。

自分と未来は変えられる。

これからの人生が、希望と挑戦に満ちた素晴らしい旅になることを心から願っています。

最後に、保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。18歳の成人を迎えるまで、まだ3年あります。我が子の心配は尽きないものですが、同じ年頃の子を持つ親の一人として、お子様方の明るい未来をお祈りいたします。

これをもって、私の挨拶とさせていただきます。

令和8年3月13日 札幌市立厚別南中学校 PTA 会長

送辞

厳しい寒さを残しつつも、やわらかな日差しが春の訪れを感じさせるこの佳き日に、卒業式を迎えられた卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆さんは、学校生活のあらゆる場面において、常に誠実に向き合ってこられました。最高学年としての自覚と責任を胸に、一つ一つの活動や日々の生活に真摯に取り組まれる姿は、私たち在校生の心に深く刻まれています。その背中は大きく頼もしく、私たちを導いてくださいました。

行事の準備や委員会活動など、目立たないところでも学校を支えてくださっていたことを、私たちは知っています。誰かのために動くことを当たり前のように実践する姿から、「最高学年としての在り方」を教えていただきました。

部活動に打ち込まれる姿からも、多くのことを学ばせていただきました。目標に向かって日々努力を重ね、思うようにいかない時もあったことと思います。

それでも歩みを止めず、仲間と支え合いながら前へ進み続ける姿勢から、努力を続けることの大切さを学ばせていただきました。試合や発表の場で見せてくださった真剣な表情や、仲間と喜び合う笑顔は、今も私たちの心に残っています。

そして、本校の合唱行事である「あつおん！」では、体育館いっぱい響く三年生の歌声に圧倒されました。クラスごとに異なる個性や雰囲気があり、それぞれのクラスが心を一つにして歌う姿がとても印象的でした。一つの曲を仲間とともに創り上げるまでには、きっとたくさんの練習をしたことと思います。その積み重ねが歌声となって体育館に響き渡り、私たちの胸にまっすぐ届きました。その姿を見て、「三年生ってすごいな」と心から感じたことを、今でもはっきりと覚えています。

卒業生の皆さん、これまで本当にありがとうございました。先輩方と過ごした二年間は、長いようであつという間の、とてもかけがえのない時間でした。

困ったときに優しく声をかけてくださり助けてくださったこと、その一つ一つの行動が私たちの支えでした。気づけば、いつも当たり前のように傍に居てくださった皆さんの存在が、どれほど大きかったかを、今改めて実感しています。

これからは、私たちがこの学校を支えていく番です。先輩方から受け継いだ想いを大切に、互いに支え合いながら、より良い学校を築き続けていきたいと思っています。まだまだ未熟な私たちですが、先輩方のような周りを思いやることのできる存在になれるよう、努力を重ねてまいります。

三年生の皆さんは、四月からそれぞれの新しい道へ進めます。新たな環境の中で、不安や戸惑いを感じることもあるかもしれません。そんなときには、この厚別南中学校で過ごした日々を思い出してください。仲間と笑い合った時間、壁を乗り越えた経験、そのすべてがこれからの皆さんを支えてくれるはずです。

最後になりますが、皆さんのこれからの活躍と、歩まれる道が希望に満ちたものになることを、心よりお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。

令和8年3月13日 在校生代表

答辞

冬の寒さが和らぎ始め、春の暖かさが垣間見える季節となりました。ほのかに暖かく、優しい風に包まれながら、今日、私たちは厚別南中学校を卒業します。本日は、私たちのためにこのような式を挙げてくださいましたことに深く感謝申し上げます。また、お忙しいなか、ご臨席いただいたご来賓の皆様並びに関係者の皆様、校長先生を始めとする教職員の皆様、保護者のみなさま、そして、在校生のみなさん、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

私たち卒業生が入学してから、今日この日に至るまで、たくさんの思い出が蘇ってきます。

やわらかな春の風に吹かれながら新たな希望と不安を胸に入学した三年前。どの経験にも「新しい」がつく最初の学校生活は分からないことも多く、とまどうこともありましたが、新しい友達や先生方との出会い、部活との出会い、先輩方との出会いなど、これから続いていく学校生活が明るくなるような、そんな時間でした。

そして、新入生が入学し、新たに「後輩」という存在ができた二年生。自分たちの勉強も少しずつ難しくなっていくなかで、部活や普段の日常生活でも自分たち以外の学年に目を向けなければならず、先輩方の大変さが分かる一年でした。

後輩たちを導こうと積極的に参加した、委員会、部活、学校行事のなかで、人間関係を築いていくことや、勉強と活動を両立することの難しさを感じました。また同時に、後輩と仲良くなっていくなかで、これらの経験にも貴重な価値があることに気付きました。

いよいよ迎えた最終学年。気がつけばあらゆることに「最後」がつくようになっていました。「受験生」と呼ばれる機会が増えていくなかで、勉強だけでなく思い出づくりも大切にできた一年だったと思います。

進級後、間もなく迎えた修学旅行では、まだ話したことがなかった人とも、これまでの友人とも、たくさんの人と親睦を深めるきっかけとなりました。また、これまでの旅行的行事よりも自由時間が多くあり、班のメンバーで話し合いながら観光することを通して、時間管理の大切さも学ぶことができました。

特に、二日目のディズニーランドでは、グループで話し合っただけの計画や先生方が定めた集合時間を気にしながら、めいっぱい楽しむことができた一日でした。

そして、七月、夏休み前最後の行事であるスポーツ大会では、各クラスがいつもとは一味違った雰囲気で見守り、団結力で満ちあふれていました。体育館は常に応援や、拍手の音が鳴り響き、会場を盛り上げ、スポーツ大会でしか感じることでできない熱気にあふれたものとなりました。

夏休みが明けて、すぐに始まったのは文化祭準備。今年度から新しく展示部門ができ、例年よりもさらに忙しさが増した時間でした。本当に間に合うのか、当日までに完成するのだろうかと不安な気持ちもありましたが、仲間と一緒に協力し、試行錯誤しながら進めていき、当日にはクオリティの高い装飾や展示、ステージを見ることができました。まさに文化祭のテーマである「シャッター」を切りたくなるようなそんな文化祭でした。

そして、休む間もなくやってきた最後の「あつおん！」毎日のように続く合唱練習は大変で、時には気持ちがぶつかり合うこともあったかもしれませんが、伴奏者、指揮者、パートリーダーを中心にクラス全体で練習を進めていくことができていたと思います。「あつおん！」当日には、各クラス練習の成果を発揮し、三年生らしい素晴らしい合唱を響かせられたと思います。

こうして、三年間の思い出を振り返ってみると、本当にたくさんの出来事と、それに伴う思い出があることを実感できます。三年間で積み上げてきたこの経験はきっと忘れることのない人生の宝物とも言えるでしょう。この三年間で培ってきた、知識、経験、友情、思い出、これら全てを大切に、今後の人生に生かせるように努力したいです。

そして、この三年間私たちを支えてくださった先生方、三年間、本当にお世話になりました。私たちがこうして経験を積み、安全な学校生活を送ることができたのは、この厚別南中学校に勤められている先生方のおかげです。時にはご心配ご迷惑をおかけすることもあったかもしれませんが、一度も私たちを見放さず、私たちを支えてくださり、本当にありがとうございました。先生方からいただいたこの恩を忘れることなく、学んだことを生かしてこれからも進んでいきます。

在校生のみなさん、これまで私たちについてきてくださり、本当にありがとうございました。私たちから受け継いだ厚南の伝統を絶えさせないように、今度はみなさんが伝統を引き継ぐ番です。これから続く学校生活は、もちろん楽しいことはかりではなく、大変なこと、辛いこともあるかと思いますが、もし、そんな場面になっても、諦めてはいけません。まわりには、先生や仲間、そして、保護者の方がついていてくれます。一人で悩みを抱えこまず、まわりに打ち明けることが問題解決につながることもあります。是非、このことを心に留めて、四月から頑張ってください。応援しています。

そして、ここまでの成長を見守っていただいた保護者の皆様、十五年間、本当にありがとうございました。常に一番近くで私たちを見守り、支えてくださったこの十五年間、どんなことがあっても、私たちを見捨てず、時には相談にのってもらったり、時には叱ってもらったり、本当にたくさんのことをしてもらいましたね。心配や迷惑をかけることがあるかもしれないけれど、これからもどうか、私たちをよろしくお祈りします。

これから私たちが進み歩いていく道は、平坦ではなく、楽しいことも、辛いことも、嬉しいことも、悲しいこともあるかと思っています。その中で、もし、つまづいてしまったときは、いつも見慣れた風景と、いつも見慣れた仲間たち、いつも歩いたこの道と、いつも学んだこの場所を思い出して、中学校三年間で様々な方からいただいた知識や経験を生かして、諦めずに前に歩み続けていきます。そして、最後まで諦めない姿をこれからも皆様に見守り続けていただくと幸いです。

最後になりますが、校長先生をはじめとする教職員の皆様、在校生のみなさん、保護者の皆様、その他私たちを支えてくださった全ての方へ深く感謝申し上げますと共に、私たちに「出会い」「友情」「思い出」「経験」など様々なものを与えていただいた厚別南中学校のさらなる発展を願い、答辞とさせていただきます。